

## 令和3年度第2回酒田市公民館運営審議会 会議記録

令和4年3月16日(水)

午後1時30分～2時30分

総合文化センター412号室

- 出席者 前田茂実委員、大塚黄司委員、岡部覚委員、山口昇子委員、佐藤純子委員、成澤つるみ委員
- 欠席者 大滝美樹委員、阿部雅彦委員、高橋利春委員、加藤千鶴委員、佐藤春佳委員
- 事務局 阿部課長、村井課長補佐、深松課長補佐、小野社会教育主査兼係長、庄司主事、佐々木主事、佐藤専門員

### 1 開 会 (事務局)

### 2 課長あいさつ

### 3 委員長あいさつ

### 4 協 議

#### (1) 令和3年度中央公民館主要事業実績について(事務局 内容説明)

##### <質疑応答>

委員長 簡潔な意見を頂戴できればと思う。

委員 コロナ禍とはいえ、一昨年よりは活動できたように思う。状況が落ち着いているときには比較的集まることもできた。しかし、計画を立てて準備しても、いざ実施しようとするときに限って蔓延し、借用施設も利用禁止になるようなこともあり計画は立てづらかった。そのような状況の中、公民館事業も予定通りに進んでないように窺える。コロナ禍に対する不安という面で、参加者の反応はどうだったのか。

委員 青年会議所も一昨年よりは活動することができたと思う。今まで対面で実施してきたものも、オンライン開催での実施が主となった。その中でオンラインを活用することの利便性や、逆にオンラインでは伝わらないことを認識することができたように思う。二点聞きたいことがある。コロナ禍で実施できなかった事業が多いようだが、今後いつ収束するかわからないのだから、コロナ禍においても実施できる方法として今手持ちのアイデアがあれば聞きたい。もう一点は各事業の参加者が少ないことについて、市のLINEなどを使って周知していただきたいと思うが、どのような周知方法をとっているのか。

委員 今年に入って小学校・幼稚園の休校・休園が相次いだ。事業を実施することに対し、どう

しても慎重になってしまう。あまり多くの人を集めることができない中で、これほど多くの事業を実施するということは大変苦勞されたことと思う。しかし、新型コロナウイルス感染症が収束するという道筋が見えない中、先ほどの委員からもあったように、オンラインの活用など新しい手法を取り入れる必要もあるだろう。

委員 事務局説明にもあったように、10月に行われた「生涯学習まつり2021」に参加した。当該事業は感染症対策のため展示のみだったが、その後サークルで自主的に体験会を企画した。コロナ禍にあり参加者が集まるか不安ではあったが、幸い80名から参加いただいた。コロナ禍においても、誰かとコミュニケーションをとりたいという欲求を感じる一年だった。そういった方々の意欲を損なわないように、細々とでも継続した活動を展開していこうと決意している。

委員 里仁館での講座は、つい先日の蔓延時期前にほぼ終了することができた。対象が子どもの事業はやはり難しいが、対象が大人のものには十分な対策を講じて実施した。定員を減らしたこともあってか、欠席が少なくなった。このような状況だからこそ、学びたいという意欲が旺盛になっているように感じる。里仁館は今年度創立20周年ということで記念式典等計画していたが、流石に実施は難しいということで次年度へ持ち越した。

事務局 参加者の反応については、新型コロナウイルス感染症に対する危機感に個人差がある。参加者数が少ないことにも繋がるが、強い不安を覚える方々が一定数いるようだ。あわせて、密を避ける目的もあり、募集人数自体を少なくしている。オンラインの可能性については、生涯学習自体が、対面での交流を通すことで技術や知識の習得のみならずコミュニティの形成へ結びつけることが主眼であり、それに代わる方法が見出せずにいる。コロナ禍における事業の実施例としては、4月に実施予定の「令和4年成人式」は初の2部制とし、可能な限り他人との接触を抑制する。また、「赤ちゃん登校日」は、実際に触れ合うことに価値がある事業なので、感染症が収束するまでは中止とした。コロナ禍において、実施可能なもの不可能なもの、代替できるものについて講師等と相談のうえ、工夫を凝らしていきたい。

## (2) 令和4年度中央公民館主要事業(案)について(事務局 内容説明)

### <質疑応答>

委員長 「酒田市成人式」については、実施しなければならない。着物業界、美容業界困窮している。しかし、実施するとしても、対象者が自発的に感染症対策を遵守する雰囲気づくりが必要不可欠と思われる。

委員 新型コロナウイルス感染症は、感染症法における分類が2類相当ということもあり、行政として対応を緩めるわけにもいかないし苦勞されていると思う。しかし、全国各地では何万人規模のイベントも行われており、イベントを開催した自治体では新型コロナウイルス感染症を大したことのないものとして扱っているのではないかと思う。感染症が蔓延した当時は死者数も多かったが、毒性が弱まり亡くなる方も減少した。むしろ、高齢者にうつさないために、子どもがワクチンを接種し命を落としている。マスクの着用や手指消毒など様々な感染症対策が

あるが、どの対策を講じても感染症が蔓延しているのだから、結局どの対策も間違いではないか。感染者数を0にすることはできない。感染することも容認したうえで事業を実施してほしい。

委員 私も前の委員と同意見で、積極的に事業を実施してほしいと思うが、感染することを容認しこれまでと同じ方法で実施するというよりも、コロナ禍での実施方法を検討することに重きを置いてほしい。「暮らしに役立つ金融講座」、「今を生き抜くための知恵いろいろ～消費生活講座」については、対象者は高齢者に限定されているのか。

事務局 限定していない。

委員 最近のフィッシング詐欺メールなど、かなり手が込んでいて、高齢者だけでなく30代40代の方でも騙されることがあると聞く。とてもよい講座だと思うので、広く展開してほしい。「デジタル社会対応講座」について。酒田市でも電子マネーや電子申請が普及し、社会が変わりつつある。欲を言えば、会議の資料もペーパーレスならばなおよい。

委員 小さな子どもを預かる立場からすれば、感染症に対しては依然危機感をもっている。「酒田市成人式」については、対象者の若い世代を祝いたい、酒田に帰ってきてほしいという気持ちはあるものの、その後の感染状況がどうなるのか心配である。

委員 各事業の課題として、参加者の減少や高齢化が多い。社会教育文化課は総合文化センターで活動する自主団体の弱体化に対して、何かしてはくれないのだろうか。例えば、チラシの代理作成やPRの場の提供などはどうか。年に1回の生涯学習まつりや広報誌への掲載だけでは不十分である。「生涯学習まつり」については、規模を縮小して3日間から2日間になった。準備や片づけを考えると慌ただしく、非常に疲れる。今年度も2日間で予定されているが見直してほしい。

委員 「デジタル対応講座」について、社会がデジタルに対応できる人材を求めている。里仁館では民間企業の無料講座との重複を避け、今年度は実施しないこととしたが、個人的には各コミュニティセンターで開催するなど、より高齢者が参加しやすい環境を整えてあげないと酒田市のデジタル化は進まないと思う。また、「中高生ボランティアサークル」について、里仁館の事業には例年協力していただいている。こちらとしてもありがたいし、ボランティアの中高生にとってもよい経験となっているようだ。次年度もお願いしたい。

委員長 各講座の周知方法について、LINEの積極的な活用をお願いしたい。文章よりも写真で送付された方がより理解しやすい。

社会教育文化課長 LINEの活用については、現在すでに配信している。また、生涯学習推進計画は「いつでもどこでもだれでも」学ぶことができることを目標としている。対面で実施することの意義を踏まえながらも、YouTubeなどオンラインを活用していくことも必要と感じている。

事務局 これまで、生涯学習の意義とは対面でふれあうことによって構築されるコミュニティの形成だと思っていた。しかし、このコロナ禍において、学ぶ意欲を疎かにしないことが求められているとなると、オンラインの活用は必要に思われる。委員の皆様には積極的に講座等に参加

加いただき実際の現場を見ていただきたい。また、何かご意見等あった場合は事務室を開放しているの、足を運んでいただければ幸いである。

委員 里仁館では実施した講座の様子をフェイスブックに掲載している。これから開催する講座の情報だけでなく、実施後の様子を掲載してはどうか。

委員 マスメディアの活用も反響があると思う。テレビやラジオ、新聞に積極的に掲載を依頼するべきである。酒田市は掲載が少ない。

委員 LINEの消極的な話について、LINEはホストサーバーを海外に設置している。LINEが無料で使用できるのは、アプリをインストールしている端末の個人情報が吸い取られているからだ。あいにくホストサーバーが設置されている国は友好国とは言い難い。自治体であれば、そのような危険に利用者を晒す可能性があるという危機感をもって運用してほしい。

事務局 「生涯学習まつり」の開催日程については、実行委員会で協議し決定していきたい。

## 5 その他

なし

## 6 閉 会